

振興計画見直しに係る地域説明会における意見交換

日時	H22.10.7 19:00~20:30
会場	柴橋地区公民館 和室
出席者数	32名
質疑の内容< 市長、 質問者 >	
<p>【公民館での行政サービス、社会福祉協議会との連携、在宅福祉】</p> <p>交通体系の整備の話あったが、特に、柴橋地区は公共交通に偏りがあり不便である。デマンド交通とか様々あるが、不便解消には行政から地域に出向く、印鑑・住民票等の証明、健康相談がある程度公民館でできる体制づくりができれば市役所に行かなくとも済む。積極的に出向いて行政をやってもらいたい。</p> <p>福祉では、地域住民と行政が協働してとあったが、問題は情報の共有がどの程度できるのか。地域で介護認定を受けている人、一人暮らし老人などの情報が実際共有できるのか。社会福祉協議会（社協）との情報共有がなっていない。逆に民生委員が調査し社協に情報提供して、社協がそれに基づきサービス提供している。市から社協に情報がっていないのではないかと。他市では社協に包括支援センターを置き、情報共有がなっているところもある。そういった方法も考える必要があるのではないかと。</p> <p>市から社協へ委託事業をしているが、本当の必要性、ボランティアの活用はどうしているのかについて、行政で検証しているか疑問である。新たな委託は、必要性があるものを委託することが重要。</p> <p>公民館のこれからの地域での役割は、山形市でも、自治総合センターというか、社会教育のみならず、行政全般にわたる機能も公民館に付加して地域拠点として位置づけしているところもある。当然地域でどういう施設を望むかもあり、見直しの中にも当然入ってくる。5年間で全ての地域にするかはこれからの問題だが、具体的に一箇所実験的に試みて効果の度合いを図りながら、検証しながら拡大していく。今までの役割に新たな地域ニーズを付加してさらに公民館が地域の拠点として活用されるというようなことを、機能を充実していくという観点から検討していく。今は教育委員会の施設だが行政全般の施設としてうまく充実できないか検討していく。</p> <p>個人情報については、見守りしなければならない人の情報が必要な人達にいかにか共有できるかは課題である。基本的に現状は自己申告による情報提供となっており、支援してもらいたい人に申告してもらっている。災害あった場合に困る一人暮らしの人などは、もっと多いと思われ、実際に把握しきれていない状況。個人の理解を得ながら情報を共有していかなければならない。</p> <p>現在、社協は、市からの委託事業をこなすのが中心であり、自主的な企画して地域の福祉的な課題に取り組む面は若干寒河江の社協は弱いようである。今年社協の事業だけでなく市の事務事業を全面的に見直していくつもりでいる。社協の事業内容についてもいい意味で整理をし、地域の実態に合う事業を企画できるように充実なるよう検討したい。</p>	

社協への支援のあり方、行政と社協の連携のあり方も中長期的な視点にた
って考えなければならない。振興計画、地域福祉計画の中で位置づけを検討
する。

(那須健康福祉課長)

市の組織上、健康福祉課長は、兼ねて福祉事務所長になっており、社協の
常務理事でもある。市で地域福祉計画を作るが、社協は、来年、地域福祉活
動計画を作ることになっているので、社協が抱えている問題、社会福祉の先
端で事業をすることになっているので、中長期的にこれまで以上にいい社協
といわれえるようにしていきたい。また、いろいろな事業展開にあたって課
題の検討もしているので、すべからく今年度で解決できるわけではないが、
短期的なもの、長期的なものとは分けをしながら取り組んでいきたい。

福祉関係では、在宅福祉の充実をしなければならない。新聞では施設入所
の待機が全国で40万人以上と言われ、寒河江でも相当いる。在宅福祉を充
実させて、介護保険の原点にたつて、実際の在宅介護者への報酬を考えてい
くと施設の入所も減っていくのではないかと。施設入所では一人当たり35万
円かかるわけだが、それ以下の金額で余った分はある程度介護している人へ
の報酬とする。寒河江で地域福祉計画を新たに作るのなら、寒河江方式とい
うものを考えて、山形県にはない、新たな計画を作してほしい。

【在宅介護者への支援、市営バス】

中郷で民生委員をしているが、先ほどの話の在宅介護している方への何ら
かの手当、親を見るのは子として当たり前と言われればそれまでだが、介護
はすごく大変で、誰かが見てやらないと介護者は休むことができない。それ
で、疲れてしまって、一旦施設に入れば家庭の事情で引き取り手がなくなる。
在宅の介護者には何らかの手当があればと思う。

また、中郷は市の中心部に随分遠いので、車に乗れないお年寄りには市街
地に美術館ができて見に行けない。若い人にも頼みづらいという話もある。
市営バスの運行を考えてほしい。

在宅介護の方は大変苦労されているわけだが、市としても何とかたまに温
泉でも入ってゆっくりしてほしいという機会を設けている。そうはいつでも
誰が面倒みるかという話もある。デイサービスを使って、なんとか一日でも
少しゆっくりしてほしいという事業もしているが、なかなか参加できない方
もいるので、今度から利用できるときに使える利用券入浴券を出すことにし
た。是非、一日半日くらいの機会だが活用して息抜きをしてほしい。

福祉バスは、前にも座談会でお話いただき、市としてもバスを設けたいと
考えてきた。やりたいとは思っているが、どれだけニーズがあるかお年寄り
を中心にアンケートをとった結果、こちらの予想に反して20数パーセント
が利用するというので、元気な人も対象にしたアンケートでなくお年寄り
だけを対象にしたアンケートでも利用するとした人が少なかった。数字がよ
く出ればデマンドバスを走らせるつもりでいた。結果が良くなかったので、
どうしたらいいか検討しており、数字が良くなかったから何もしないわけで

なく、代わるもの例えばタクシー券など他の自治体も参考にして検討しているところ。検討の時間がかかっているが、順調であれば今年の後半からやるつもりでいたが、バスについては利用するという人が予想より少ないので、別な方法で地域の足となる方法を今検討しており、来年度から実験的にやって行く方向で今検討しているので、大変申し訳ないが少しお待ちいただくということにさせてもらいたい。

【農業（さくらんぼ）振興】

以前からの寒河江市のキャッチフレーズ「さくらんぼの里さがえ」はインパクトがなく、目標を掲げてもいつもそこまでいかない。東根の「日本一生産量」のようにもう一つ加えて何か考えてはどうか。

今日お示した将来都市像は、寒河江の23年度から27年度までの進むべきまちづくりの方向性を示すもの。寒河江は日本一さくらんぼの里を合言葉として使ってきた。東根市の将来都市像は、「幸せつくる 学びと交流のまち」である。キャッチフレーズもそのものが市の目標になるとは限らないとも言える。多くの市民がさくらんぼにこだわってほしいとのアンケート結果であるので、振興審議会の委員もあえてさくらんぼを将来都市像に入れこんで寒河江の元気を作っていこうと考えていただいたものである。インパクトが弱いと言われるが、日本一さくらんぼの里というキャッチフレーズは今後も使っていくが、振興計画の将来都市像は、短い方がインパクトがあるが、新しいものは少し長い、今後とも「さくらんぼ」についても頑張るといことなので、御理解いただきたい。

【飛び地の解消】

ワークショップにもあるが、飛び地の解消を望んでいる。普段は隣近所として仲良く暮らしているが、行政区域になると地域が分かれてしまう。敬老会や老人クラブは、寒河江市は助成金があるが、大江町はない。子どもは大江町の子も含めて寒河江市の教育委員会で対応しているが、高齢者の問題は、市と町に分けて別々になっている。なんとか解消してほしいと強く要望する。

飛び地の解消は大きな課題で、できるだけ早い時期に解決したいと思っている。大江町と寒河江市で土地を交換してやればいいが、寒河江の中に大江町があるのが実態で片方に偏っているため、土地の交換となるとなかなか難しい。大江町の土地を寒河江市に帰属させるしかない。寒河江市に帰属させるとなれば寄付をもらうことになる。宮城県でも近年そんな事例があり、記録では無償でらしいが、大江町から大きな心で寒河江市の土地にもらうことが必要だが、これはなかなか難しく宮城の事例でも議会で何度も議論したようだ。人の心を考えれば、金で解決するのも問題なので、相手方の意向が重要である。大江町長と話を続けているがすんなりとはいかず、時間がかかる。飛び地居住の住民が大江町役場に声を大きくして訴えていくことも必要と思う。